

日経配当指数、19年の最終値 7年連続で過去最高を更新

日本経済新聞社が1日まとめた日経平均・配当指数(2019年)の最終値は457円65銭と、18年に比べ11円33銭上昇し、データのある1998年以降で最高になった。10年連続で前年に比べ上昇し、7年連続で最高を更新した。

日経配当指数は、日経平均株価の構成銘柄をある年の1月から12月まで保有していた場合に得られる配当額を指数化した。3月末で19年分の配当額が確定し、最終値が決まった。

昨年3月から算出・公表を開始した日経平均・予想配当指数も同じ値で19年最終値が確定した。日経配当指数では、株主総会などで配当金が確定するつど積み上げて算出するのに対して、日経予想配当指数では一旦配当落ち日に予想配当金で積み上げたうえで、配当金が確定した段階で実績と予想との差分を調整する。結果として、日経配当指数と日経予想配当指数の各年ごとの最終値は一致する。

決算期が集中する20年3月期末の配当は、日経予想配当指数では配当落ち日である3月30日に予想ベースで、日経配当指数では6月の株主総会後に、それぞれ20年の指数値に反映される。

※日経平均・配当指数、日経平均・予想配当指数についての詳細は、以下のURLを参照。

日経平均・配当指数

<https://indexes.nikkei.co.jp/nkave/index/profile?idx=nk225dp>

日経平均・予想配当指数

<https://indexes.nikkei.co.jp/nkave/index/profile?idx=nk225edp>